

学内アルバイト学生支援事業

考えてみれば、ワークスタディに支えてもらった3年間だったなど、卒業する今になってひしひしと感じます。始めたての二年生の頃は、そもそも人生初めてのバイトであり、緊張していた部分もありましたが、優しい事務の方々や先輩のおかげで嫌な印象なく仕事に専念出来ましたし、何より学園祭や式典の補助といった、他のバイトではできない独自の経験が楽しくて、運営の裏方など、珍しい業務に関しては入れられるだけシフトを入れていたのを覚えています。

三年生になる頃には顔見知りも増えて、他学部の学生と交流する様になり、見識を広げるきっかけとなりました。働いている人間が全員弘大生というのもワークスタディの魅力であり、普通のバイトに抵抗のある人でも気軽に申し込むことができる一つの要因になっていると感じます。

四年生の後期には、研究室が忙しく時間に追われる日々を過ごしていましたが、早朝に行われる消毒作業や、全ての講義が終わった後の夕方に行われる講義室点検といった、隙間時間に行える短い時間の仕事に積極的に入ることで、なんとか生活費を稼ぐことが出来ていました。

学業を疎かにすることなく、豊かな大学生活を送れたのは、間違いなくワークスタディのおかげだったと、自信を持って言えます。シフト制のため、無理してはたらき過ぎることもなく、自分に合った仕事量や勤務時間を選べるのは、今の大学生が求める職場の理想像だと私は考えます。少なくとも、私の大学生活はワークスタディが無ければ成り立っておらず、かけがえのない存在でした。感謝してもしきれません。今後も末永くワークスタディが続いていき、私の様な学生を支える柱になってくれることを、切に願っております。

最後になりますが、学生支援にお心を寄せていただいた皆様に対し、お礼申し上げます。この御恩を忘れず、いつかは自分も支える側の人間となるために、今後も精進して参ります。

農学生命科学部